

地方独立行政法人山口県立病院機構評価委員会（第6回）の概要

1 開催日時

平成24年7月9日（月）10:00から12:00まで

2 開催場所

山口県庁本館棟4階 共用第2会議室

3 出席者

評価委員会委員：5名

事務局：7名

法人：12名

4 内容

(1) 県健康福祉部長挨拶

(2) 議事

① 平成23年度における法人の業務の実績に関する評価について

② 平成23年度における法人の財務諸表について

- ・ 事務局から資料1～資料3について、法人から資料4～資料6について説明。

主な質疑応答・意見 委員 事務局 法人

- 業務運営を法人の自律性・自主性に委ねるとした独法制度のメリットを活かしていくためには、業務実績に関する評価を通じ、法人内の各担当部門において計画に対する実績の達成状況を確認・検証することで、職員の士気の向上につなげていくことが大事である。

評点を決定するまでの法人内部の手続・プロセスはどうなっているのか。

- 自己評価に当たっては、まずは各担当部門で評価を行い、各病院及び理事会において検証した後に、その結果をもう一度現場にフィードバックし、各担当部門と十分議論を重ねた上で評定を決定しており、そうした過程の中で、調整を行った項目もある。

- 平成23年度収支計画と収支実績との対比において、支出のうち給与費の主な減少理由の1つに現員減とある。病院運営において「人」は最も大きな財産の1つと考えているが、この現員減の内容について教えてほしい。

- 給与費については、計画策定時は、7対1看護体制の実施など各部門が必要と見込んだ常勤職員の全人数を計上して所要額を積算したところであるが、実際は所要人数の確保までに期間を要したものもあり、その期間に相当する部分が計画との対比では減少となった。

計画との差額のうち、約半分がこうした現員現給の減によるもので、残り半分は新陳代謝による減であるが、これは新卒の看護師を多く採用したため、計画時の見込みと比べて給与の平均単価が下がったことによるもの。

- ヒヤリハットレポートの報告件数が増えたことは確かに成果であるが、医療事故の発生件数は減少したのか。

□ 重篤な医療事故はなかったが、病院としては、ヒヤリハットレポートをしっかりと検証することにより、今後の医療事故を抑制するとともに、事故が重篤化しないように努力してまいりたい。

- 職員満足度アンケート調査を実施しているが、その結果については、特に給与に関する部分が最も重要であるが、次年度以降、どう反映させていくのか。

□ 給与については、これまでの地方公務員の給与制度をベースにしたものから、独法にふさわしい給与制度を新たに構築していかなければならないと考えており、現在は、専門のコンサルタントや他の病院から情報収集を行っている段階である。

今後、まずは人事評価において職員の頑張りを評価する制度を整備した上で、その結果を給与に反映させる仕組みを構築していく必要があり、職員の理解を得ながら、着実に進めていきたいと考えている。

- 法人が一生懸命頑張っていることが分かった。独法化によって良い方向へ向かっていると感じた。

利用者の声を聞くため、提言箱を設置して患者や来院者のニーズの把握に努めているとあるが、入院患者が退院する際にアンケート等を実施すれば、入院中の体験を踏まえた改善要望や意見を把握することができるのではないか。

□ 日頃の患者からの要望等は、担当の看護師を通じて各病棟の看護師長に伝えるようにしており、各病棟において、日々、ニーズの把握に努めている。

- 医療サービスを受ける側からの意見の中に病院運営の改善のヒントがあると思うので、こうした患者の声にしっかりと対応し、今後、病院がより良い方向に進んでいくことを期待する。

- ・ 今回の審議事項2件については継続審議とし、評価委員会の評価結果(案)及び財務諸表承認に当たっての意見(案)については、次回委員会において決定することとなった。

② その他

次回の評価委員会は、8月3日(金)の午前10時30分から開催する。